

第27回 関川流域委員会

第3回保倉川放水路環境調査検討委員会 の開催報告

令和6年12月2日

北陸地方整備局 高田河川国道事務所

第3回保倉川放水路環境調査検討委員会の開催報告

前回委員会で頂いたご意見とその対応、現在までの現地調査状況、関川水系河川整備計画の変更原案についての関係住民意見聴取(パブリックコメント)で頂いたご意見とその対応(環境影響に係る地元懸念事項(海水、風)への対応)等について、審議、助言等をいただく「第3回保倉川放水路環境調査検討委員会」を開催しました。

開催日時： 令和6年11月1日(金) 15時00分～17時00分
開催場所： リージョンプラザ上越 ホール

内 容： ●保倉川放水路環境調査検討委員会 規約改正
●前回委員会で頂いたご意見とその対応
●現在までの環境影響項目の現地調査状況
●地元懸念事項に関する現地調査状況
●関川水系河川整備計画変更原案の関係住民意見聴取(パブリックコメント)で頂いたご意見とその対応(海水、風への対応)
●今後の進め方

報道関係： 新聞社等 4社 一般傍聴： 21名



委員会開催状況



傍聴席



小池委員長



春日委員



加藤委員



田中委員



富永委員



中村委員

氏名	所 属	備 考
五百川 裕	上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授	御欠席
春日 良樹	元妙高高原ビジターセンター 館長	
加藤 史訓	国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	
小池 俊雄	国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	委員長
田中 孝幸	国立研究開発法人 土木研究所 流域水環境研究グループ流域生態チーム 上席研究員	
富永 禎秀	新潟工科大学 工学部 工学科 教授	
中村 雅彦	上越教育大学 名誉教授	
馬場 吉弘	新潟県立海洋高等学校 教諭	御欠席
細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授	御欠席

※五十音順、敬称略

【委員からの主なご意見】

- 他事例と比べても観測状況は充実していると思われる。観測を継続し、データを蓄積して、時系列で評価することが重要である。
- 保倉川放水路周辺を緑化等した場合、特定外来種等の望まれない動植物が集まってしまうことも考えられる。地域の方々の協力も得ながら、モニタリングを行い、それを共有することによって地域の方々の関心を得ることも重要である。
- どのような条件を想定して解析したのかを明らかにして共有することが重要である。風環境は絶えず変化するものであり、それを理解して貰うことも必要である。観測期間が長ければ長いほどデータの信頼度が増すので、観測は継続して欲しい。
- 保倉川から魚類等の生物が流入してくると想定されるが、それを考慮した検討を行っているのか。
- 保倉川や関川下流域における生息状況を参考として検討ができるのではないかと。今後の検討課題である。
- 潮止堰を設置した場合のDOの挙動が複雑な結果であると感じた。水の流れを分析しメカニズムがわかるようにして欲しい。